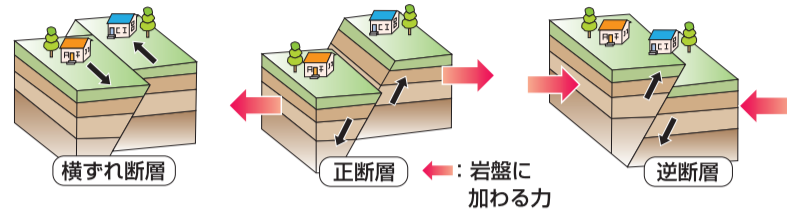


地震

《地震の起こる仕組み》

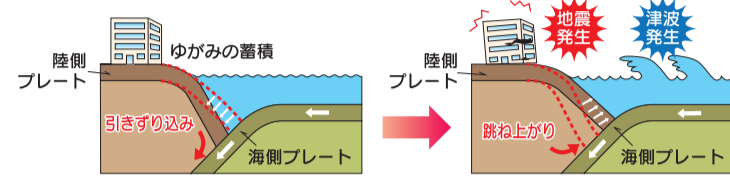
活断層地震

地下にある岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで内部にゆがみのエネルギーがたまり、これが限界に達したときに、ある面（断層面）を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。



海溝型地震

海溝のプレートが陸側のプレートを引きずり込むことで境界にゆがみのエネルギーがたまり、これが限界に達したときに、陸側のプレートが元に戻ろうとして跳ね上がり、地震が起こります。



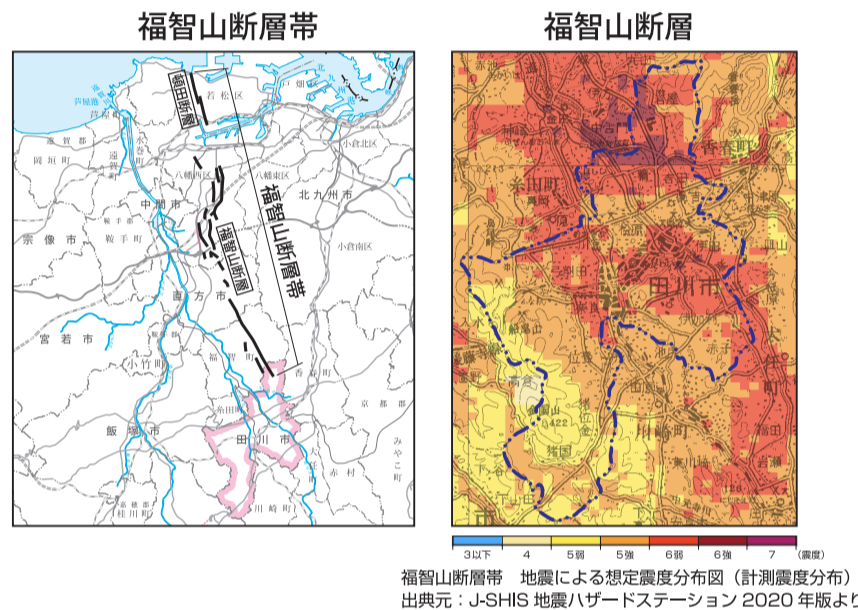
《田川市に被害を及ぼす主な地震》

● 福智山断層帯

福智山（ふくちやま）断層帯は、北九州市若松区頓田（とんだ）付近から、八幡西区、直方市、田川郡福智町を経て、田川市夏吉（なつよし）付近にかけて分布しています。地表で確認できる長さが約28kmで、北北西—南南東方向に伸びる西側隆起の逆断層成分を伴い、左横ずれを主体とする断層です。

想定される地震の規模(マグニチュード)※1	7.2程度
田川市で想定される最大震度※1	6強
30年以内に地震が発生する確率※1	ほぼ0%~3%

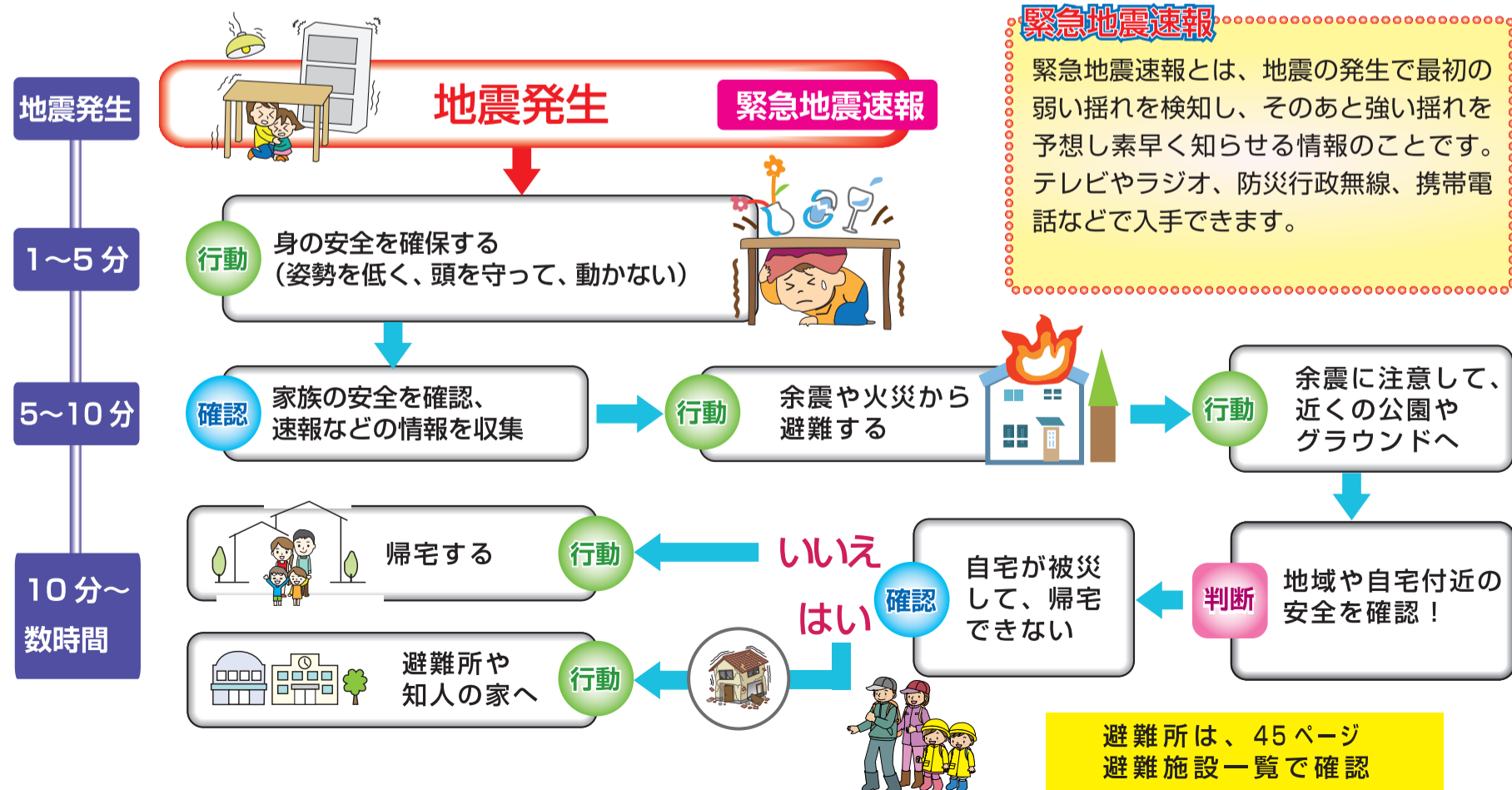
※1 地震調査研究推進本部 主要活断層の長期評価 (算定基準日 2024年1月1日)



福智山断層帯 地震による想定震度分布図(計測震度分布) 出典元: J-SHIS 地震ハザードステーション 2020年版より

地震発生時の行動

地震はいつ起こるか分かりません。地震が発生したとき、被害を最小限におさえるには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をすることが極めて重要です。



震度階級と想定される被害

震度0 人は揺れを感じない。	震度4 ほとんどの人が驚き、一部の人は身の安全をはかろうとする。部屋の不安定な置物が倒れることがある。	震度6弱 立っていることが困難になる。壁のタイルや窓ガラスが破損し、落下することがある。耐震性の低い建物は倒壊の危険がある。
震度1 室内で静かにしている人の中には、わずかな揺れを感じる人がいる。	震度5弱 ほとんどの人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。耐震性の低い建物では、壁や柱が破損することがある。	震度6強 立っていることができず、はわないと動くことができない。補強されていないブロック塀のほとんどが崩壊する。
震度2 室内にいる人の大半が揺れを感じ、つり下がっている電灯などがわずかに揺れる。	震度5強 物につかまらなると歩くことが難しい。タンスなど重い家具でも倒れることがあり、建物の変形によってドアが開かなくなったりする。	震度7 揺れにほんろうされ、自分の意思で動くことができず飛ばされることもある。耐震性の高い建物でも倒壊するものがある。大きな地割れや山崩れなどが発生することがある。
震度3 室内にいる人のほとんどが揺れを感じ、棚にある食器類が音を立てることがある。		

緊急地震速報の受信と行動

緊急地震速報とは、地震の発生で最初の弱い揺れを検知し、そのあとの強い揺れを予想し素早く知らせる情報のことです。テレビやラジオ、防災行政無線、携帯電話等で入手できます。速報が発表されて、数秒から数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとってください。

※震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります!

家庭では <ul style="list-style-type: none"> ● 頭を座布団などで保護して、丈夫な机の下などに隠れる。 ● あわてて外へ飛び出さない。 	屋外では <ul style="list-style-type: none"> ● ガラスや看板などの落下物に注意し、ビルのそばから離れる。 ● ブロック塀・門扉などの倒壊に注意する。 	人が大勢いる施設では <ul style="list-style-type: none"> ● 係員の指示に従い落ち着いて行動する。 ● あわてて出口に走り出さない。 ● バックや買い物かごなどで頭を保護し、ショーケースなど倒れやすいものから離れる。
車の運転中 <ul style="list-style-type: none"> ● ハザードランプを点灯し、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車させてエンジンを切る。 ● 急ブレーキは絶対に踏まない。 	山やがけ付近では <ul style="list-style-type: none"> ● 落石やがけ崩れに注意し、平らで安全な場所に避難する。 ● 安全が確認されるまで山やがけには近づかないようにする。 	エレベーターでは <ul style="list-style-type: none"> ● 全ての階のボタンを押して、停止した階で、すぐ降りる。 ● エレベーターに閉じこめられても、焦らず冷静になって「非常用呼び出しボタン」などでの連絡を取る努力をする。

家の耐震診断

昭和56年以前に建てられた木造住宅は、旧耐震基準を前提に建てられている場合があり、新耐震基準の家に比べると倒壊する可能性が高い傾向にあります。耐震性に不安のある場合は、福岡県が行っている「耐震診断アドバイザー派遣制度」を利用して、耐震化について相談してみましょう。

● 福岡県耐震診断アドバイザー派遣制度の概要

制度の対象	福岡県内にある原則昭和56年5月以前に建築された平屋または2階建の木造戸建住宅。
相談の窓口	(一財)福岡県建築住宅センター (生涯あんしん住宅)
内容	必要に応じて耐震診断アドバイザーを派遣し、現地調査を実施。
派遣費用	一般診断 6,000円/件 簡易診断 3,000円/件

詳しくは ホームページをご参照ください。

福岡県庁ホームページ ▶ 木造戸建て住宅を対象とする耐震化促進の取組み 検索

QRコード

